

単元名：和歌の世界から見る古の心
 ー「君待つと」万葉・古今・新古今

(全5時間扱い中 第2時)

授業日時 令和3年10月20日(水)第4校時

授業学級 3年B組

授業会場 3年B組教室

授業者

指導者

(1) ねらい

和歌を批判的に読みながら、和歌に表れているものの見方や考え方について考えることができる。

(2) 授業のポイント

- ・場面：三首の和歌のうち、どの和歌が秋の歌として最も優れているか考える。
- ・活動：インターネットや便覧で調べることを通して、それぞれの和歌に込められた、作者の心情や描かれた情景、表現の効果に着目して和歌を解釈する。

(3) 展開

過程	活動	○授業者の主発問・◇留意点・★教材	時間
導入	【単元の学習問題】 どの和歌が秋の歌として最も優れているだろうか。		10
	1. 前時を振り返り、和歌の解釈に余地があることを確認し、追究への意欲を持つ。 2. それぞれの和歌における作者の心情や描かれた情景、表現の効果から和歌を解釈できること確認し、追究の見通しを持つ。	◇前時の振り返りを共有し、和歌の解釈がよく分からないという反応を取り上げ、本時の追究の見通しを確認する。 ○「和歌を解釈するためにはどのようなことを追究したらいいでしょうか。」 ◇作者の心情や描かれた情景、表現の効果などを知りたいという反応から、学習課題を据え追究に入ることを確認する。	
	【学習課題】 インターネットや便覧で和歌について調べ、それぞれの和歌に込められた、作者の心情や描かれた情景、表現の効果に着目して解釈しよう。		
展開	3. 個人やグループで追究を行う。	◇タブレットや便覧を使って、作者の心情や描かれた情景、表現の効果について調べる。 ◇特に「君待つと」では「風」の情景、「秋来ぬと」では「風の音」にした効果、「見わたせば」では物寂しいような秋の様子を詠んだ心情について追究するように促す。 ◇同じ和歌を選んだ友と互いの考えを共有する場を設ける。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">【評価】 和歌に込められた作者の思いや情景を踏まえ、和歌に表れているものの見方や考え方について考えている。(ワークシート)</div>	35
終末	4. 本時の学習を振り返り、次時への見通しを持つ。	○「振り返りを記入しましょう。」 ◇他の和歌についても知りたいという振り返りを書いた生徒に発表を促す。	5

★額田王 「君待つと我が恋ひ居れば我が屋戸のすだれ動かし秋の風吹く」

★藤原敏行 「秋来ぬと目にはさやかに見えねども風の音にぞおどろかれぬる」

★藤原定家 「見わたせば花も紅葉もなかりけり浦の苫屋の秋の夕暮」